



ふるさとの**自然**

(20)

めっきり数が減ったスズメ

最も身近な鳥、スズメ。近ごろその「チュン、チュン」という鳴き声が、あまり聞かれなくなったとは思いませんか。

●人間と共に生きる鳥

スズメは人間を頼って生活している鳥です。「舌切り雀」のお話や「ちいちいぱっぱー」でなじみの童謡など、昔から人々に親しまれています。スズメにとって、最も怖い敵はやはり人間で、うかうかしていると焼き鳥にされてしまいます。そのため体の色は地味で小回りの利く体つきをしており、常に人間の動きを観察して身を守っています。

●何でも食べる雑食性

スズメは雑食性で、草の種子や昆虫、人間の出すパンくずや生ごみなどを食べています。子育てのころは栄養価が高く消化しやすい、昆虫や幼虫を捕まえて、ひなに与えます。ひなが大きくなってくると、夫婦で1日に450回も餌を運んでくるそうで、害虫駆除に役立っています。

●厳しい生き残り

スズメは5個前後の卵を産み、年に2回ほど繁殖して約10羽のひなを育てます。夏の終わりには、群れを作って田んぼで餌を捕り、夜は竹やぶなどで集団で眠ります。

冬になると、その年生まれた若鳥は、各地に移動して新しい住み家を探しますが、家の周りにはすでに親鳥が住み着くなどして、なかなか良い場所は見つかりません。そのため、ほとんどの若鳥は1年以内に死んでしまいます。

●急激に数が減少

家の周りにいるのは当たり前だと思われていたスズメ。ある調査によると、20年前の半分から5分の1に減っているそうです。軒先や戸袋、屋根などに巣を作るスズメですが、隙間のない家が増えたため、巣が作れなくなったことや、餌不足などが原因ではないかと考えられています。

(伊藤敏一)

イキイキ

あさひっ子



ゆうり
勇慶ちゃん

平成22年10月24日生

両親＝小林勇貴さん

あずささん〔足川〕

「ぼくのこのスマイルに
じいじもばあもみ～
んなくぎづけさ♡」

けいじゅ
圭寿ちゃん

平成21年4月28日生

両親＝池田利明さん

景子さん〔鎌数〕



「水遊び大好き！」



みさ
美咲ちゃん

平成22年10月20日生

両親＝高木祐太郎さん

真美さん〔南堀之内〕

「お庭で初プール♪ 来
年は大きなプールに行
きたいな♡」

“イキイキあさひっ子”を大募集

掲載を希望する人は、秘書広報課広報広聴班(〒289-2595 旭市二の1920・☎62-8070)へ。

対象は、小学校入学前の幼児です。申込用紙は、旭市保健センター、飯岡保健センター、秘書広報課、各支所にあります。

編集こぼれ話

県立中央博物館で開催している「砂のふしぎ」を見学してきました。あさひ砂の彫刻美術展実行委員会らが作成した、ティラノサウルスの頭部の砂像が展示されていて、作成している様子もビデオで上映されていました。また世界各地の砂の標本や、音が出る砂も展示されていて、実際に鳴らしてみてもできました。館内にはそのほかにもいろいろな展示があり、予想以上に楽しむことができました。これからは散歩感覚で、博物館に行ってみようと思います。(コ)

県立中央博物館で開催している「砂のふしぎ」を見学して

くらしのカレンダー

3日(木)	文化の日 黒虎相撲(午前9時40分～ 袋太田神社)
5日(土)	津波避難訓練(午前9時～ 海岸沿線地区)
6日(日)	ふるさとまつり・ひかた2011(午前10時～ 干潟中学校)
12日(土)	第7回生涯学習フェスティバル(～13日(日) 東総文化会館)
20日(日)	第2回旭市民体育祭(午前9時～ 東総運動場)
23日(水)	勤労感謝の日 海上産業まつり(午前10時～ 海上コミュニティ運動公園)